

	本館	郡分	山館	会分	津館	白分	河館	平分館	相分	馬館	田分	島館	計	%
貸付件数	(25) 48	(98) 79	(46) 106	(45) 45	(79) 123	(75) 61	(42) 39	(410) 501	—					—
貸付冊数	(596) 1,066	(2,117) 2,097	(743) 2,186	(1,202) 1,143	(140) 2,161	(1,262) 933	(519) 728	(6,579) 10,314	—					—
利用人員	男	(23) 176	(1,575) 1,098	(281) 818	(621) 488	(206) 445	(150) 162	(287) 250	(3,143) 3,437	(39.6) 33.3				
	女	(186) 460	(2,000) 3,269	(386) 1,156	(652) 656	(749) 699	(422) 244	(382) 395	(4,777) 6,879	(60.3) 66.7				
	計	(209) 636	(3,575) 4,367	(667) 1,974	(1,273) 1,144	(955) 1,144	(572) 406	(669) 645	(7,920) 10,316	—				
利用冊数	0	(5) —	(45) 27	(3) 23	(75) 60	(56) 78	(7) 16	(8) 8	(209) 212	(1.6) 1.3				
	1	(14) 25	(118) 95	(28) 85	(106) 58	(36) 54	(32) 46	(15) 25	(349) 388	(2.7) 2.5				
	2	(23) 62	(326) 237	(61) 140	(92) 69	(43) 75	(39) 38	(32) 30	(616) 651	(4.8) 4.1				
	3	(22) 78	(403) 340	(113) 212	(100) 121	(58) 131	(57) 56	(52) 76	(805) 1,014	(6.3) 6.5				
	4	(8) 21	(121) 65	(12) 58	(27) 29	(11) 41	(26) 33	(24) 28	(229) 275	(1.8) 1.8				
	5	(4) 38	(58) 88	(23) 45	(90) 107	(12) 25	(23) 9	(1) 29	(211) 341	(1.7) 2.2				
	6	(8) 7	(54) 30	(17) 68	(23) 24	(16) 34	(13) 6	(37) 22	(168) 191	(1.3) 1.2				
	7	(21) 18	(133) 107	(12) 16	(19) 57	(18) 19	(19) 14	(25) 15	(283) 246	(2.2) 1.6				
	8	(4) 3	(53) 60	(6) 20	(10) 12	(7) 20	(10) 12	(5) 8	(94) 135	(0.7) 0.9				
	9	(852) 1,581	(6,179) 3,318	(1,221) 2,331	(1,595) 1,530	(1,185) 6,683	(1,595) 1,236	(320) 484	(9,881) 12,163	(76.9) 77.9				
計	(961) 1,833	(4,490) 4,367	(1,506) 2,998	(1,821) 2,067	(1,442) 2,160	(1,821) 1,466	(519) 725	(12,845) 15,616	—					

読書グループの育成

読書グループ調査

① 読書グループの全県的な調査は、昭和35年に一度実施したことがあるので、今回の調査にあたっては、直接調査にあたってくださる地教委および公民館職員の手数をできるだけ省くために、次のような方法を取った。すなわち、前回の調査表を印刷し直して、それに新しくできたグループがあれば「書き加え」消滅したグループは「抹消」してもらったことにした。そうすれば前回に報告されたもので、それが今日まで継続しているようなグループまで、いちいち書きこむわずらわしさから解放される。

② それにもかかわらず、120の市町村のうち、期限までに報告されたのは、54市町村(45%)にすぎない。そこで残りの66市町村に再度調査を依頼した。結果は、33町村から報告があって、前回の分と合わせると、81市町村(72.5%)になったけれども、39町村からはどうしても報告を得ることができなかった。(第1表)

③ 再度の調査依頼によって報告されてきた33町村の内容を見ると、その大部分は「該当なし」と報告してきている。そうしてみると、全く報告のない39町村も、その大部分は「該当なし」とみるべきであろうか。

④ けれども、安達郡、石城郡、東白川郡のように、一つの郡で一つのグループもないというも納得できないし、前回の調査のときには、相当数のグループが存在しながら、今回の調査には含まれていないところもある。そういうように、調査がゆきとどかないために漏れているものがかなりの数は上るのではないか。だからこのうへはこの調査表をもとにして、時間をかけて、こまめに調査していかなければ、正確な数はでてこない。

⑤ 昭和35年のときの調査では、353のグループがあったことが確認されている。今回の調査では438だから、この2ヶ年間に、数の上では85グループ(20%強)が、たしかに増えていることになる。けれども、35年のときには報告がなくて、今回の調査に新たに報告してきたのが9町4村(42グループ)あるから、85グループの全部が35年以降に新しくできたグループであるという結論は下せない。逆に、35年には「ある」と報告があって、今回の調査には「ない」と報告してきたところが4町2村(19グループ)あるから、実質的にはそれほど増えているとはいえないことになる。

⑥ 個々の市町村別にみると、市の段階では、平市が4グループから15グループに増えて、比較的目立って